

建築デザイン論

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：人間と環境を考えた建築デザインの動向と課題、それらの背後にある思潮と設計手法について理解を深める。特に近現代建築の建築思潮を理解するために、建築、哲学、デザイン、風景、環境デザインなどに関する多岐に渡る具体的な事例から学ぶ。各自が分担に応じてレポートをまとめて発表し、講義と議論をもとに授業を進める。また総合実習科目などとも関連づけた授業とする。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：①人間と環境を考えた建築デザインの思潮を学ぶ。
②建築デザインの意義と事例を学ぶ。
③環境から捉えた建築デザイン（パッシブデザイン）の意義と事例を学ぶ。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山田 良・齊藤 雅也

■**授業計画・内容**：

主に建築デザインの思潮、設計手法、事例に関する講義と、建築環境デザインからの視点に基づく思潮、事例に関する講義に分けて進める。

第 1 回 パッシブデザインとその系譜、建築計画原論の再考

第 2 回 バナキュラー建築・都市のデザイン

第 3 回 断熱・熱容量を活かす温もりのデザイン

第 4 回 日射遮へい・天空放射を活かす涼しさのデザイン

第 5 回 昼光を活かす明暗のデザイン

第 6 回 中間季の室内気候デザイン・半屋内空間のデザイン

第 7 回 空間×時間の建築デザイン

第 8 回 パッシブ×アクティブ建築技術のインテグレート

第 9 回 建築デザインの世界・哲学

第10回 建築思潮と表現

第11回 建築デザインと風景

第12回 身体と空間、および諸概念

第13回 芸術としての建築

第14回 建築設計とディテール

第15回 建築をデザインすること

■**教科書**：「設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）」 その他、必要に応じて資料を配布する。

■**参考文献**：「建築設計資料集成 総合編 日本建築学会編（丸善）」、「建築設計資料集成 拡張編」（環境）、（人間）、（居住）、（地域・都市I～II）ほか

■**成績評価基準と方法**：出席状況（50%）および提出課題、定期試験（25%）、レポート（25%）を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	○	○	○		25
小テスト・授業内レポート	○	○	○		25
授業態度	○	○	○		
発表					
課題・作品					
出席	○	○	○		50
その他					

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅱ（建築・環境）ほか、設計・製図等の建築設計製図の科目。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：